

會學濟經學大國帝都京

# 叢論濟經

號一第 卷十第

行發日一月一年九正大

## 論 說

- 温情主義と労働問題……………法學博士 田島 錦治
- 手數料決定上の二問題……………法學博士 神戶 正雄
- モリスの文明觀と藝術觀と労働觀……………法學博士 河田 嗣郎
- 所帶統計概説(二完)……………法學博士 財部 靜治
- キヤナンの富の概念に就きて(一)……………法學士 石川 興二

## 時事問題

- 智識階級の解散……………法學博士 戸田 海市
- 朝鮮の財政獨立に就て……………法學博士 小川 郷太郎

## 雜 錄

- 生活費の組織的研究の必要……………法學博士 山本美越乃
- 判任官生活の實狀……………法學士 汐見 三郎
- 獨逸大銀行の取引所伸立業に就きて……………法學士 大森 研造
- 我國に於ける新ブルジョア階級の成立(二完)……………圓 谷 弘
- カンニンガム博士逝く……………法學士 本庄榮治郎
- 京都帝國大學經濟學會第一回講演會記事……………

時事問題

智識階級の解放

戸田 海市

一 智識階級解放の必要

過去に於ける政治革命か貴族の強權より平民階級を解放するに在りし如く、今や文明國を遁して行はれんとしつゝある社會改造は、資本主義の壓迫より労働者を解放するに在りと稱せられるが、元來今日の資本主義なるものは彼の國際間に於ける武力的及經濟的の帝國主義と共に所謂現代物質文明の産み出した所である。故に今日文明國民の要求しつゝある眞の社會改造は獨り労働者のみならず、總ての社會階級を此物質文明の弊害より解放し、之をして更に健全なる文化的生活を營ましむることであり、決して單に個々の労働者又は其團體をして今日有産者か生産上に占めつゝある所に類する地位を占領せしめ、又は今日の有産者か營みつゝある所に類する享樂生活を營ましむることを目的とするものではない。今日の物質生活過重思想か一般に是認せらるゝ根

りは、假令へ今日の資本主義を倒しても、各人各階級の間に於て有限なる物質の分配を争ふことと、此物質生産に必要な勞働の負擔を互に他に轉嫁せんと争ふことと、か、人生の最大問題とせられ、又國と國との間に於ても國民の物質生活の基礎たる領土と天然資源とを獨占し擴張することと外交の中心問題とせられ、之か爲め各國内に於ては有力なる生産者又は其團體か今日の有産者に類する專制權を振はんとして社會的闘争か繼續せられ、又國際間に於ても依然帝國主義か跋扈して人類の共同生活を脅かすことは止まぬであらう

人間の生存を幸福にし之を有意義ならしむる爲めに物質の貴重なるは勿論であるか、現代文明の病弊は人間の幸福か主として外形的物質的の力に依頼して達せらるゝものと信じて過度に物質の所有を尊重することである。人間の生活は各自の有する生活力を自由に活動發展せしむることに由り幸福となるものであつて、外面的なる物質は實に此内面の生活力を支持し其發動を助くるの具として意義を有するのである。例へば食物を消費する場合を見ても、大病人か滋養灌腸を受くるか如く無意識又は強制的に外部の物質に依頼する場合よりも、味覺と云ふは一種の生活力を意識的に自由に働かしむる場合に初めて愉快を感じ、即ち生活の意義を感じるのであるか、食物を味ふの力は強烈なるも極めて局限せられたものであるから、進歩した人間に取つては此方の活動夫れ自身よりも、食物攝取に由り總ての他の生活力の支持せらるゝ點か重要視せられる。吾人か



養成するに至つた。特に産業革命が行はれて富の集中が可能となつた爲めに、此專制主義が非黨に發展して現代社會の最大支配力となるに至つた。故に今日吾人の必要とする社會改造は單に專制主義の一形式たる資本主義を打破するを以て足れりとせず、此主義を成立せしめたる根本思想を打破して人類の自由を回復し、各自をして有意義の生活を営ましむることである。

今日社會改造を行ふに付き分配を公平にすることの重要視せらるゝ所以は、今日の如く分配が不公平なるときは、富を多く有することに由て民衆の死命を制するか如き社會的勢力を獲得し得るか爲め、社會の優秀なる能力は物質の生産獲得と、其濫用即ち事業其物の發展よりも自己の收益を増加することゝ集中せられて、他の文化的慾望の發展と満足とを顧るの餘裕を有せざるに至ると同時に、貧困なる民衆も亦其生存を維持するの必要より分配を増加することに其勢力を集中して他を顧るの遑なき有様とならざるを得ない。然るに分配を公平にして各人の物質的生活を保障することか出來たならば、富を多く有することを以て社會的勢力を得るの最良手段とすることか困難となり、従つて今日過度に物質の生産獲得に集中せられたる能力が解放せられて一般文化的事業の調和的發展に向ふことゝなり、又生産事業に従事する場合にも他の協力者の分け前を奪ふことに由て収益を増加するよりも、寧ろ自己の固有する生産能力を自由に其事業の上に發展せしめ、即ち事業其物に生存の意義を見出たすことに重きを置くの結果を生じ、一面に生活の安定を

得たる労働者も一般文化的慾望の満足を求むるの餘裕を生ずるのみならず、其地位の強固となるは結果として、生産事業に協力するに付ても各自の能力を自由に其仕事の上に發揮し、以て仕事其物を自己の有意義なる生活の重要部分と爲すことを要求し得る地位に置かるゝことゝなるからである。即ち分配を公平にすることは總ての社會階級を物質過重思想より解放して之を文化的發展に向はしむるの機會を造り出すことゝなるからである。一面に社會一般の文化尊重の思想が強まつて來れば、直接間接に此文化的慾望を満足せしむる爲めの仕事が増加し、即ち量の仕事に比して質の仕事が増加し、従つて人々か労働に従事すること自身に由て直接に自己の高尙なる個性を發展するの機會が増加する。併し乍ら眞の社會改造を行ふには單に消極的に社會諸階級の間に劣勢となつて伏在する所の文化尊重の思想に擡頭發展の機會を供することを以て足れりとせず、必ずや積極的に此思想を強大ならしむる爲めに人類一般の覺醒を促さねはならぬ。

社會改造の基本條件たる文化思想の發展する爲めには、今日の社會に於て最も教養ある階級たる智識階級か最大の責任を負はねはならぬ。今日の智識階級の多數は時代の風潮たる物質生活過重の弊に陥つて居ることは事實であるが、彼等の境遇を見れば労働者と多く異らざるか如き束縛を受け、見方に由ては一層深刻なる束縛を受けて其階級的特色の自由の發展を害せられつゝある。故に健全なる社會改造を行ふか爲めには是非とも智識階級を解放せねはならぬ。特に我國の如く

勞働運動の尙ほ幼稚なる後進國か時機を失せずして社會改造を行ふか爲めには、智識階級を解放することを必要とする。我國の社會改造に付き國家の公職に従事する所の智識階級か社會的に覺醒することの如何に必要なるやは既に屢之を論したが、茲には更に一般智識階級をして社會改造事業に對し其天職を完ふせしむる爲め、其階級的特色の自由の發展を妨ぐる制度より之を解放するの必要を述へる

## 二 智識階級の束縛の現状

世人は往々今日の智識階級の特色を指して、夫は有産者の優勢なる時代には其勢力を維持するに有利なる理論を建設し、又其機關となつて之か實行の任に當るが、階級戦か盛んとなつて無産者か優勢となるの傾向か見へて來れば競ふて其陣營に投し、無産者を神聖化するか如き理論を建設し又其解放運動にも努力すると云ふか如く、寄生的機會主義的なることを其の著しき特色と論する者もあるが、是は無論酷評である。有産者全盛時代に於て其壓迫に辟易せず、又勞働者の無自覺に絶望せずして夙に社會改造の必要を主張した者は智識階級であり、又實際運動の方面に於ても智識階級は勞働運動を今日の程度にまで進めるに付て非常の貢獻を爲せしのみならず、有産者の支配の下に實務に従事する場合に於ても、資本主義の弊害の緩和に多大の努力を爲し、特に

今日文明國に見るか如き社會政策の發達に付て大なる努力を爲したることは明白な事實である。併し乍ら一面に今日の智識階級か論者の指摘せるか如き缺點を多大に有することも拒まれぬ事實である。特に此缺點は政治經濟の實務方面に活動する智識階級即ち公私の役員階級又は俸給生活者の間に著しく現はれて居る。吾人は此點に付て智識階級の反省を促かすと同時に、彼等の立つて居る特種の境遇を吟味することを怠つてはならぬ。

今日の文明國に於て労働者と資本家とは兩極端に立ち、労働者が如何に努力しても資本家の列に進むの機會は殆んど絶無と云ふべく、又労働者が資本家と日常接觸して之と人的關係を生ずることも、今日の經濟界に於ては稀有の例外となれるに反し、役員階級は常に有産者に接觸して直接に其感化を受くる場合が多く、又智識階級にして大に努力すれば自から有産者となるの機會も尙ほ幾分か殘存し、加ふるに彼等は少數つゝ各企業に繼續的に分屬し、労働者の如く多人數か一企業の下に日、常相接して其間に階級の意義を強め、又團結運動を起すの機會を有たぬ。其地位は恰も家内工業労働者の如く分散的である。役員階級か一の事業に繼續的に從屬し、且つ其事業の經營管理に深く關係を有する事務に從事するの結果として、彼等の從屬關係は單に有形的なるに止まらずして精神的となることは當然である。官界に於ては勿論實業界に於ても其從屬關係を定むる所の服務規律は甚だ嚴格である。彼等か俸給を受くるは労働者が労働を賣つて勞銀を得るか如き賣買

關係と異り、事業主より生計を支持せらるゝ代りに一身を其職務の爲めに捧ぐることを要求せられて居る。此事たる理論上決して不合理ではないが、實際に於て其服務規律が彼等の從事する精神的労働に付き指揮者の専制權を定めて居る爲め、彼等が民間事業に就職する場合には事業其物よりも寧ろ雇主個人の利益の爲めに一身を捧ぐることを強要せられ、又公職に從事する場合にも往々職務其物よりも寧ろ上長官個人に仕へることを要求せらるゝ場合か起ることを免れない。

此等の事情よりして役員階級の中稍上位に進める者は、實際に於ては自から有産者となるの前途遼遠なる者までも多くは有産者氣質を生し、専制主義の特色たる老人閥先輩閥と情實とか跋扈して、比較的理想到熱し得る少壯者が極度に壓迫せられ、其結果役員階級と云へば有産者の機關であり、専制主義の擁護者であると見做さるゝ有様である。現に資本労働の協調を目的とする種の計畫に於て、資本家と労働者との協議が規定せらるゝに反し、役員階級には多くは獨立の階級的地位か認められず、彼等の利益は當然資本家に由て代表せらるゝものゝ如く取扱はるゝを常とする。尙て役員階級は傳習的に筋肉労働者を劣等視し、又近來役員階級の中には労働者に同情して之を其奴隸的狀態より解放することに努力するの傾向を生じたやうであるが、最近の實狀を顧みれば役員階級か却つて一層強く奴隸的狀態に陥り、而も其多數は之に甘んじて徒らに官僚式處世術に腐心し、有産者化せんと努力し、各自の實質價値の力に依頼するよりも、寧ろ他の協同生活

者の自由を抑へる所の獨占的排他的專制的なる財力や位階や稱號に多く依頼して生活せんとするの傾向を生し、之か爲め月給取りと云へは往々人をして若朽者去勢者を聯想せしむるか如き有様となれるに反し、労働者こそ眞に不羈獨立なる清鮮の空氣を呼吸し、幼稚ながらも其内部に潑刺たる創造力の潜在することを豫想せしめ、人類社會の再生は寧ろ之を労働者の勢力の發展に求むるの必要なるを思はしむるか如き有様となつて居る。

此の如く智識階級就中其大多數を占むる所の公私役員階級が誘惑と強制とに由て労働者以上の奴隸的狀態に陥り、其階級的特色たる高度の教養即ち文化的理想か滅却せられつゝあるか爲め、比較的的理想に富み且つ活氣を有する所の少壯者は之に堪ゆる能はず、續々労働者の陣營に走つて其運動を援助し指導することとなる。此事たるや労働運動を有力ならしめ且つ之を合理的ならしむるに大關係を有することは疑を容れないが、併し智識階級か本來獨自の地位を認めらるべき階級的特色を有するに係はらず、之を認められない爲めに已むを得ずして労働者の陣營に投する者の少なからざること、往々之をして労働者階級に同化せしむるよりも寧ろ之に寄生せしむる場合を生し、之か爲め彼等の運動か往々労働者に不親切なる煽動となり、又労働者を踏み臺として一足飛びに有産者階級に進入するの手段に濫用せらるゝこととなるは避くべからざる勢である。故に健全なる社會改造を行ふか爲めには智識階級を解放して其階級的特色を發揮せしむることを必

要とする。今日社會改造の問題は兩極端に立つ所の資本と労働との兩勢力の闘争に由て解決せらるゝの外なきか如き形勢となつて居るか、此闘争が進むに従ひ双方の運動が道理を逸して極端なる盲目的感情に左右せらるゝことゝなるは自然の勢である。又此場合には有産者か少しても優勢を保つ間は飽くまで現制度の不合理な點をも維持せんとし、更に労働者か愈優勢となつた場合には極端なる破壊を行ふて後日の建設を非常に困難ならしむるに至ることか明かであり、或は之か爲めに永き暗黒時代を現出するの危険なしと云ふを得ない。眞の社會改造は新しき文化主義の勝利を得せしむるの外なきに係はらず、今日の如き階級戦に由る解決方法は有産者の物質主義に對するに無産者の物質主義を以てし、貴族的專制主義に對するに民衆的專制主義を以てし、改造の目的たる眞の自由は何處にも立脚地を發見し難く、従つて破壊は期待せらるゝも建設は保證せられざるか如き有様である。特に小企業的の農業が人口の過半を占むる後進の我國に於ては労働者の地位の尙ほ薄弱なるか爲め、今日直ちに労働者の力に由て社會改造を行ふことは不能と云ふを妨げない。故に我國が時機を逸せずして健實なる社會改造を行ふ爲めには是非とも智識階級を解放して其力に多く依頼せねばならぬ。

智識階級と労働階級との關係に付ては複雑なる問題か起つて居るか、根本に於て兩者は現に有する所の人間的價値の力に由て生活せんとする労働者であり、従つて過去の功績の結果に勢力を

附與し、現在に價値を有するや否やを顧みざらんとする政治的經濟的社會的の階級專制主義に反抗し、人爵よりも天爵を、外形よりも實質を尊重することに由り、人類の自由を回復する爲めに戦ふ者であるから、互に相扶けて初めて改造事業を完成し得るのであるか、頭腦の働と筋肉の働、理性の力と感情の力、建設の傾向と破壊の傾向とに於て自から階級的特色を異にするものであるから、強て之を一團體に詰め込まんとする畫一主義は前述の如く種々の弊害を生ずる。智識階級を解放して之に獨立の階級の地位を認めることゝすれば、眞に勞働階級に同化し得る個性を有する者のみか、勞働者の陣營に投することゝなるから、勞働運動を健實ならしむるの利益があつて之を廢敗せしむるの弊害が多く起らない、多數の智識階級と勞働者とが同一の事業に於て互に協力しつゝある場合に於ては、彼の産業別組合主義の主張するか如く兩者を一團體とすることに付ては、本誌前號にも一言せしか如く予輩は敢て之を否認せんとする者でなく、之を自然の發展に任かすべきものであると信するか、我國の現状より見れば兩階級が互に他を害することなくして此主義を實現するの時機は未だ熟して居ない。加之智識階級の多數實務に従事する場合は、政府及自治體の公務に従事する場合は勿論、民間に於ても筋肉勞動が重きを爲すを得ざる商業方面であるから、産業別組合主義は智識階級の小部分を收容し得るに過ぎない。此點より見ても智識階級を解放して之に獨自の階級の地位を認むることを必要とする。

### 三 其解放の方法

智識階級を解放するには、其の思想界に生活する者と實務界に生活する者と對して、夫れ夫れ適當の方法を採らねばならぬ。先づ前者に付て云へば思想及言論の自由を束縛する種々の制度を廢止し又は緩和することである。此事は政治問題に關聯して多年議論せられた所であるから茲に詳論するの必要を認めないが、智識階級自身の反省を促かす爲めに一言を費すの必要がある。元來思想界の生命は個性的創造にあるか爲め自由を必要とするのであつて、何れの主義主張にも人爲的有形的の專制權を附與するを得ないのである。之に自由を認むるの結果として往々有害なる思想の流布することを免れないが、併し理性の發達したる社會に於て思想と戦ふには思想を以てすることが最も有效であるから、自由の要求が正當視せられるのである。然るに我言論界の實際を見れば脅迫暗殺毒殺に等しき專制主義が跋扈し、其低能者が互に揚足取りに磨心するは勿論、相當の能力ある輩と雖も往々にして互に危險思想と罵り、曲學阿世と嘲り、醜惡極まる人身攻撃を見ることも稀れてない。是れ實に官僚が權力に訴へ、資本家が金力に訴へ、又民衆が暴力に訴へると同じく、專制主義を實行して自由を否認するものである。我國の思想界が衣服の流行の如く常に淺薄なる流行の波に支配統一せらるゝ重大原因は、思想界に於て強大なる奴隸根性があつて

事大主義か跋扈する爲めてある。此奴隸根性あるものは機械的に地位を轉換すれば忽ち専制主義となるものであつて、思想界の生命たるへき自由と相容れない。故に智識階級か思想言論の自由を束縛する制度に反對するに方つては、先づ自から省みて自己の大缺點より解脱せねばならぬ

次に實務界に於ける智識階級を束縛する制度を見るに、公職に従事する官公吏を支配する所の官僚的空氣、及之を具體化する官制と服務規律なるものか事業主宰者の専制權を支持する爲めに濫用せられつゝあることは、民間事業に於ける資本家の専制權を支持する所の資本主義と同様である。元來公私の事業主宰者か其事業に協力する多數の人々を有効に指導するの價値を現實に有するや否やよりも、過去に於て其者が正當に又は往々不當若くは偶然に獲得したる財産又は位階の力に由て主宰的地位を保つことゝすれば、當然に嚴酷なる專制的服務規律を必要とし、之か爲め其事業に協力する人々の有益なる自發的創造的努力か妨げられ、之をして事業其物よりも主宰者個人の利益の爲めに働かしむるの弊を生ずる。此專制主義の下に於て役員階級は一般に去勢的状態に陥るのであるが、特に彼等は己の良心に反して主宰者の命令に服従するの己むを得ざる場合の少なからざることば非常の苦痛である。筋肉労働者は其従事する仕事か機械的力役であるから、假令へ彼等の地位か奴隸的であると稱せらるゝも、尙ほ役員階級の如く自己の良心を賣らざるを得ざるか如き苦痛は起らない。是れ役員階級か労働者よりも一層自由を失へりと云はるゝ

所以である。

總て事業の主宰者が眞正の指導的價値の力に由て之を主宰する場合には、專制的なる服務規律を必要としない。一の事業に協力する人々が優越なる指導に服従して働くのは、其實服従するのではなくて自主自律するのである。學理でも藝術でも政治でも、之を享受する人々か、之に由り自己の内部に存在せる智的美的道德的の固有力を解放して自由に活躍せしめ、例へば他人の學説を聽くのではなくて眞の自己が推理に耽るのであり、他人の演藝を觀るのではなくて自から歌ひ自から踊るのであると云ふか如き氣分を生じた場合に、初めて有意義に生活したと云ふ感を起すのである。故に眞の優越なる事業主宰者と其主宰方法とは之に協力する人々をして各自の内的要求より進んで之に協力活動せしむるか如く、即ち各協力者をして有意義に生活するの自由を有せしむるか如く指導を行ふものである。固より此の如き完全なる指導者と指導方法を不完全なる人類社會に於て發見し難きことは事實であるが、併し何れの時と所とに於ても相當に優秀なる指導者と指導方法を發見することは決して困難ではない。只た今日の如く之が發見の主なる方法として、過去の功績の象徴たる以上の意義を有することの保證せられざる財産や位階の大小高下に由ることとは當を得ない。固より吾人は過去の功績に酬ゆるに吝かなるへしと主張するものではない。之に酬ゆるは即ち將來の努力を奨励する所以である。故に役員階級や労働者が終世過失なくして其

職任を盡したならば、何等かの方法に由り其の老後を安全ならしむる年金的利益を之に捧ぐることも必要である。又個人の消費生活の自由を保護する方法として個人的所得なるものか認めらる、限り、如何なる社會組織の下に於ても浪費を制して共同生活に必要な資本を貯蓄することを奨励せねばならぬから、貯蓄に對して相當の報酬を拂ふことも得策である。併し乍ら今日の資本主義や官僚主義の如く過去の功績に酬ゆるに現在の事業を主宰指導するの地位を以てし、其地位を維持するか爲めに專制的の指導方法を探ることは不當である。然らば正當なる指導者と指導方法とを見出すには如何なる方法を探るべきやと云ふに、今日の如く進歩したる社會に於ては事業に協力する人々をして之に關し適度の發言權を有せしむることを必要とする。既に資本と勞働との協調方法として少くとも勞務の執行に關係する事項に付ては、勞働者にも資本家と對等の發言權を與ふることの必要か汎く認められんとするに至りし今日に在ては、公私役員階級に同様の發言權を與ふるの必要なることは争はれない。特に今日の社會改造は文化主義の勝利に由て完成せらるべきものであり、各人をして外的報酬の多寡よりも寧ろ仕事其物の内に自己の生命を見出さしむるの主義を徹底することに由て成就せらるべきものであるとすれば、此主義の代表者として最も適當の階級たる智識階級をして、各事業の運営に對し其主張を實現せしむる爲め之に發言權を與ふるの必要なることが明かである。

事務の執行に關して役員階級に發言權を與へるときは、事業進行の經過か或程度に公開的となり、秘密を保つことに困難となる。此事たる多少の不利かないてはないか、併し此秘密主義か實に資本的官僚的專制權の最良の武器として濫用せられつゝある。事務の經過か公開的となり、特に各自の發言を公開の席上に於て爲さしむるの方法を探るときは、相互監督の作用に由て各自の正義心の發動を強められる。然るに従來の如く秘密主義に由り上長と下僚とが一切を秘密交渉に由て決するときは、下僚か脅迫せられ又は誘惑に陥り易く、特に此方法の行はるゝ場合には下僚自身の利己心か跋扈するの機會か増加し、彼等か自から進んで資本的官僚的專制主義の擁護者となり、之か爲め彼等の協力は財閥や元老閥の情弊に支配せられて、仕事其物が各自の個性を發展完成せしむると云ふ文化的意義を失ふこととなる。故に公私の役員階級に對し其職務に關して寛大なる發言權を與へ、特に此點に付ては理想に熱し易き少壯者を成るべく老成者と同等に取扱ふことを必要とする。此事たる平時に於ても事業の進歩を圖るに必要であるか、社會の根本的改造の必要となれる今日に於て特に緊要である。早く文明の頂上に達したる英國社會か今尙ほ相當に清新の氣象を保ち得たる原因の一は、人格尊重の思想の行渡れる結果として人格的價值に由り少壯者の重く用ひらるゝ場合の少なからざるに在ることは識者の夙に觀破した所である。我明治維新の革命か圓滑に行はれ、尊王攘夷を標榜したる革命運動か其目的を達して國家の統一を實現する

と同時に開國進取の方向に進み、殆んど破壊と建設とが相並んで行はるゝか如き状態を呈したる所以は、其運動が當時の智識階級と云ふへき下級武士階級に由りて行はれ、特に其の少壯者が解放せられて自由に活動し、之が爲め當時の社會が所謂書生の天下となつたからである。労働者の勢力の微弱なる今日に於て社會改造を行はんとすれば再び書生の天下とならねばならぬ

近頃我國にも俸給生活者組合即ちS. M. U.の運動が起るに至つた。此種の運動を論することは他の機會に譲り、茲には智識階級解放の關係より之に付て一言する。既に述へし如く役員階級は殆んど各事業に固定的に分屬するか爲め團結運動を起すことか甚だ困難な地位に立つて居る。故に其運動を有效に行ふか爲めには非常の努力を必要とする。我國が健全なる社會改造を行ふか爲め智識階級の解放を特に必要とするものとすれば、其解放の手段となる所の組合運動を公私事業に於て寛大に認容することを必要とする。労働組合を認むると云ふことの意義の何たるやは本誌前號に之を論じたか、此論旨は俸給生活者組合の場合にも適用せらるべきものである。而して此組合の運動が普通の労働組合の運動と同じく組合員の物質生活の保護手段とせられ、即ち雇傭條件の改善と共濟事業とに努力することか現在の社會に於て必要なるは拒まれないか、併し之を以て組合の根本目的とすることは智識階級の運動としては餘りに卑近である。此組合は刻々必要の迫り來れる社會改造を行ふ爲めに智識階級を解放するの原動力となり、所謂書生の天下を造り出

すの策源地となり、此階級の特色たる一般文化尊重の思想を自由に社會改造事業の上に發揮せしむることを根本目的とせねばならぬ

智識階級の養成に付ては何れの國に於ても學校教育が重大の意義を有するか、社會教育の作用の不完全なる我國に於ては特に學校教育が重要な關係を有する。然るに我學校教育も社會一般と同じく物質過重主義に陥り、注入教育、試験制度、稱號制度等の諸種の弊害が跋扈し、恰も物質主義の社會が要求する所の武器を鍛ひ上くるか如き有様を呈して居る。教育の職を採る所の予輩が本文を草するに方つて自己の責任の大なるを感せざるを得ない